

「グローバル化した国際政治経済問題と外国研究」

外国語学部で国際関係を勉強するということはどういうことか。

知識の伝達よりも外国研究への関心を高めるための話。

私の授業やら研究テーマの紹介。

1. グローバリゼーションと外国研究・国際関係研究における経済要因の重要性の増大

→正しい経済学的視点の必要性

2. グローバリゼーションと経済・政治・文化

- ・グローバリゼーションとは？市場化の徹底(世界共通市場化)あたりはコンセンサス。
- ・市場経済の基本メカニズム(論理)とその問題点(最適性の問題と前提の問題)
- ・経済的価値・政治的価値・文化的価値の関係と今のグローバリゼーションの特徴。

3. 世界における貧富の格差の問題(国際的南北問題、国内南北問題)

- ・アマルティア・セン→貧困とは、単に所得の低い状態ではなく、(選択の)自由が欠如している状態。もちろん、低所得は、(選択の)自由を奪う大きな要因の一つ。
- ・絶対的貧困→世界人口 60 億のうち、半数に近い 28 億人が 1 日 2 ドル以下、5 分の 1 にあたる 12 億人が 1 日 1 ドル以下の生活。その 44% が南アジアに住んでいる。
- ・世界の経済格差 1997 年の GDP では、富裕 1/5 が 86%。貧困 1/5 が 1%
- ・乳幼児死亡率

4. 貧困問題の見方

経済成長さえすればいずれ貧困は解消される(トリックルダウン)

by 先進国政府開発援助、国際機関 <1950 - 60 年代> しかし。。

貧困削減、開発プロジェクト (上からの見方)

by 先進国政府開発援助、国際機関、国際NGO <1970 年代以降> しかし。。

貧困者自身の歩みの発展(下からの見方: 先進国の人あまり知らず、考慮しない)

→貧困者のスペース拡大と People's Process の発展 <1980 年代以降、将来へ>

5. 貧困者のスペースの拡大と People's Process

- ・ 貧困者自身の自立的発展の障害

土地、場所へのアクセス (Land, Place)

クレジットへのアクセス (Credit)

マーケットへのアクセス (Market)

- ・ アジアでの貧困者自身による上記3つの障害を克服する試み: People's Process

< 共通に成果を挙げている取組み >

コミュニティ・オーガニゼーション

貯蓄グループ (saving group)、信用貯蓄組合 (credit union)、マイクロクレジット (micro credit)

共同 (協同組合的) でのマーケットへのアクセス

< 特徴 >

コミュニティを基盤とした (Community-based な) 取組みであること。

創造的 (Creative) な試みであること。

水平交流 (Horizontal Exchange: 住民どうしの経験交流)

最後の水平交流については、一言だけ説明しておく。私たち (日本人) は、一般に途上国の貧困者に対して、何かを教えたり、やらせたり、プロジェクトを持っていくと言ったような関わりだけを考えがちである。しかし、実はこれでは、変化はその地域だけにとどまり、自発的な広がりをもたらさない傾向にある。それに対して、水平交流では、外部者 (海外の援助団体や企業、国内行政等) が何かを教えたり、やらせたり、プロジェクトを持ってくるのではなく、住民自身のやっていることが、住民どうしの経験交流によって自発的に広がっていく。そしてその経験交流の広がりには、単に一国内にとどまることなく、例えば、カンボジアとタイ、タイとインド、インドと南アフリカ、ジンバブエなどなど、貧困者自身の国際的グローバルなネットワーク構築に及びつつある (People's Process の発展)。

(参考: 下川の担当する講義)

国際経済学 1・2 (基本的には連続した講義。きちんとした経済学を紹介し、それをベースに国際政治経済問題を論じる。少しむずかしめ)

国際政治経済論 1 (経済学的視点をベースに よりより具体的な話を。ほど経済学は要求されない部分が多い)

国際政治経済論 2 (貧困問題に特化。上記5が中心。経済学は知らなくても大丈夫。)